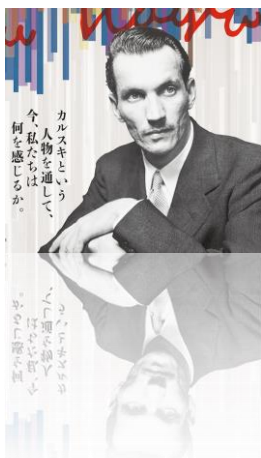


《第70回例会》ヤン・カルスキ生誕100周年記念展示会

「私はホロコーストを見た」 in 札幌



第二次大戦中に自ら目撃したナチスによる犯罪、ホロコーストを世界に語り続けたポーランドの偉人ヤン・カルスキの生誕100周年を記念して、彼の生涯を数々の写真を通して振り返るヤン・カルスキ展「私はホロコーストを見たーヤン・カルスキの黙殺された証言」を札幌でも開催します。



※ 東京での催しを含めて、詳細は同封のフライヤーとHPをご参照
<http://instytut-polski.org/event/4872/>

--- 関連書籍紹介 ---

カルスキ自身による証言

「私はホロコーストを見た 黙殺された世紀の証言 1939-43」ヤン・カルスキ著

記録文学の傑作、本邦初訳。
誠意と勇気。個人の冒険がそのまま世界の運命につながっている。どうしてこれがフィクションでないのだ？(池澤夏樹氏推薦)
吉田恒雄訳 四六判 白水社刊 2012年
上・下 定価各 3,024円



フランス人著者がカルスキの苦悩について書いた

「ユダヤ人大虐殺の証人ヤン・カルスキ」

ヤニック・エネル著
ユダヤ人大虐殺の証人として映画『シオア』にも登場したカルスキの苦悩、「人類の怠慢、無知、無関心が悲劇を生んだのだ」という悲痛な叫びを独創的手法で描く。
飛幡祐規訳 四六判 河出書房新社刊 2011年
定価 2,376円



ヤン・カルスキ (1914-2000)

大学を優秀な成績で卒業し外交官になったが、まもなく第二次大戦が勃発し、捕虜となるも脱走、並外れた語学力と記憶力によってポーランド地下国家の政治密使の任務を託される。ワルシャワ・ゲットーや強制収容所に潜入、ナチスによるユダヤ人大虐殺の事実を世界に伝えるため、1942-43年、イーデン英外相やルーズヴェルト米大統領に面会し、ホロコーストについて最初期の証言をしたが、黙殺された。1944年に米国で刊行された著書は大ベストセラーとなり、後に多くの外国語に翻訳された(『私はホロコーストを見た』白水社、2012など)。

戦後は米国に亡命、ジョージタウン大学で40年にわたり国際関係論と共産主義理論の講義を行った。彼の学生の中に、後に大統領となるビル・クリントンがいた。生涯の最後の20年間、彼は世界各国で、戦争中のユダヤ民族大量虐殺について、この悲劇に対する全世界の関心をかき立てようとした自らの試みについて、繰り返し語った。

彼は数多くの権威ある賞を受けている。「諸民族のなかの正義の人」の称号や、ポーランド内外8つの大学の名誉博士号、ポーランド最高の国家勲章・白鷺勲章を授けられ、2012年にオバマ大統領は大統領自由勲章を授けた。ポーランド共和国下院は2014年を「ヤン・カルスキ年」とする決議を行った。

〈第70回例会報告〉

「ヤン・カルスキ展2014」札幌開催

～ヤン・カルスキから何を学ぶのか～



尾形 芳秀

ホロコーストの証言者として知られるヤン・カルスキの生誕100周年にあたる今年を、ポーランド政府は「ヤン・カルスキ年2014」として、各種の行事を世界的に展開してきた。その一環として「ヤン・カルスキ パネル展」が東京に次いで札幌でも開催された(10/27-11/9、札幌エルプラザ 2F交流広場にて)。

そもそも「ヤン・カルスキ」とは何者なのか。カルスキは実名ではなく密使のコードネームで、本名は「ヤン・ロムアルト・コジエルフスキ」(1914-2000)という。ウッチ市に生まれ、ナチスによるホロコーストの証言者となった。

パネルの概要

展示パネルは総数 22 枚あり、これを一覧するだけでヤン・カルスキの生涯を知ることができた。

- ①世界は知った——ヤン・カルスキが果たした人道的な任務／
- ②未来を予知していた証言者／
- ③ポーランド性の坩堝(るつぼ)に生まれて／
- ④愛国的な家系／
- ⑤カルスキの学生時代／
- ⑥外交官の夢潰れる／
- ⑦敗北の苦い味／
- ⑧間一髪、死を免れる／
- ⑨死神との二度目の遭遇／
- ⑩地下国家の二重構造／
- ⑪カルスキ・ユダヤ人の運命を知る／
- ⑫「死の収容所」への中継基地／
- ⑬カルスキ、懐疑論者に迎えられる／
- ⑭密使から公人へ／
- ⑮カルスキの戦争回想録、ベストセラーに／
- ⑯ジョージタウン大学教授／
- ⑰ポーラー、優雅、そして悲劇／
- ⑱新たな名声／
- ⑲人類の「第二の原罪」／
- ⑳ホロコーストの全体像／
- ㉑ヤン・カルスキ——人道主義の英雄／
- ㉒死去、告別式、遺産に——

ポーランドのユダヤ人に対するホロコースト(ランズマンの映画から「ショアー」とも呼ばれる)やアウシュヴィッツ強制収容所の悲劇はよく知られているが、第二次世界大戦中にナチス・ドイツによる大量虐殺を世界に知らせる行動をとった人物がいたことはあまり知られていない——というより、彼の人道的な行為は米英により黙殺されたのである。

彼はポーランドのレジスタンス活動家で、学業優秀で外交官となるも、まもなく第二次世界大戦が勃

発、ポーランドはナチス・ドイツの電撃戦に敗退、領土をナチス・ドイツとソ連に分割される。彼は、初めはソ連、次いでナチス・ドイツの捕虜となり、ゲシュタポによる激しい拷問を受け自殺を図るが、搬送先の病院でレジスタンスの同志により救出される。数々の偽名や身分を使い(最終的なコードネームは「カルスキ」、並外れた語学力と記憶力を武器として、ポーランド地下国家の活動に貢献した。

1942年夏、地下国家とユダヤ人指導者らの要請でワルシャワ・ゲットーや強制収容所に潜入、そこで目撃したナチスによるユダヤ人大虐殺を世界に伝えた。密使カルスキの報告は、ホロコーストの事実を諸外国に伝える最初の証言となったが、列強は様々な思惑からこれを黙殺し、結局ユダヤ人を救うための有効な措置がとられることはなかった。

彼は偽名のまま米国に留まり、終戦前の1944年にニューヨークで回想録を出版するとたちまちベストセラーとなり翻訳も出たが、中傷や思惑もあり、戦後は長らく忘れられていた。ワシントン D.C.近郊にあるカトリック系のジョージタウン大学で国際関係学部教授としてひっそり暮らし、30年以上の沈黙ののち、フランスの映像作家クロード・ランズマンによるドキュメンタリーの傑作「ショアー」(1985)の証人として再び注目を集めるようになった。

開催期間中、会場ではパネルを丹念に見入る来場者もあり、この展示は一人でも多くの方々に興味をもっていただく貴重な機会になった。(30名ほどの方がご記帳くださいました。)



オープニングセレモニーで 安藤会長と 広報文化センターのヴァチンスキ氏(右)

(参考)ヤン カルスキ — 人類のヒーロー (Google Cultural Institute)